





兒童作品展覽會 在伯同胞兒童の教育

(下)

級方圖畫、手工の三科目は、表現教科であります。美學者クローチエは、藝術は表現され、居ります。即ち何れも藝術教科であります。

從つて根本の教育方針は三者とも完全共通であらねばなりません。即ち何れも藝術教科であります。即ち何れも藝術教科であります。

一、論理主義より

二、他律的綴文製作より

三、技巧本位より

四、教授形式より

五、表現本能に立脚して

六、歌舞藝術による

七、色彩藝術による

八、運動藝術による

九、音樂藝術による

十、文學藝術による

十一、哲學藝術による

十二、宗教藝術による

十三、社會藝術による

十四、政治藝術による

十五、經濟藝術による

十六、文學藝術による

十七、哲學藝術による

十八、社會藝術による

十九、政治藝術による

二十、經濟藝術による

二十一、文學藝術による

二十二、哲學藝術による

二十三、社會藝術による

二十四、政治藝術による

二十五、經濟藝術による

二十六、文學藝術による

二十七、哲學藝術による

二十八、社會藝術による

二十九、政治藝術による

三十、經濟藝術による

三十一、文學藝術による

三十二、哲學藝術による

三十三、社會藝術による

三十四、政治藝術による

三十五、經濟藝術による

三十六、文學藝術による

三十七、哲學藝術による

三十八、社會藝術による

三十九、政治藝術による

四十、經濟藝術による

四十一、文學藝術による

四十二、哲學藝術による

四十三、社會藝術による

四十四、政治藝術による

四十五、經濟藝術による

四十六、文學藝術による

四十七、哲學藝術による

四十八、社會藝術による

四十九、政治藝術による

五十、經濟藝術による

五十一、文學藝術による

五十二、哲學藝術による

五十三、社會藝術による

五十四、政治藝術による

五十五、經濟藝術による

五十六、文學藝術による

五十七、哲學藝術による

五十八、社會藝術による

五十九、政治藝術による

六十、經濟藝術による

六十一、文學藝術による

六十二、哲學藝術による

六十三、社會藝術による

六十四、政治藝術による

六十五、經濟藝術による

六十六、文學藝術による

六十七、哲學藝術による

六十八、社會藝術による

六十九、政治藝術による

七十、經濟藝術による

七十一、文學藝術による

七十二、哲學藝術による

七十三、社會藝術による

七十四、政治藝術による

七十五、經濟藝術による

七十六、文學藝術による

七十七、哲學藝術による

七十八、社會藝術による

七十九、政治藝術による

八十、經濟藝術による

八十一、文學藝術による

八十二、哲學藝術による

八十三、社會藝術による

八十四、政治藝術による

八十五、經濟藝術による

八十六、文學藝術による

八十七、哲學藝術による

八十八、社會藝術による

八十九、政治藝術による

九十、經濟藝術による

九十一、文學藝術による

九十二、哲學藝術による

九十三、社會藝術による

九十四、政治藝術による

九十五、經濟藝術による

九十六、文學藝術による

九十七、哲學藝術による

九十八、社會藝術による

九十九、政治藝術による

一百、經濟藝術による

一百零一、文學藝術による

一百零二、哲學藝術による

一百零三、社會藝術による

一百零四、政治藝術による

一百零五、經濟藝術による

一百零六、文學藝術による

一百零七、哲學藝術による

一百零八、社會藝術による

一百零九、政治藝術による

一百一十、經濟藝術による

一百一十一、文學藝術による

一百一十二、哲學藝術による

一百一十三、社會藝術による

一百一十四、政治藝術による

一百一十五、經濟藝術による

一百一十六、文學藝術による

一百一十七、哲學藝術による

一百一十八、社會藝術による

一百一十九、政治藝術による

一百二十、經濟藝術による

一百二十一、文學藝術による

一百二十二、哲學藝術による

一百二十三、社會藝術による

一百二十四、政治藝術による

一百二十五、經濟藝術による

一百二十六、文學藝術による

一百二十七、哲學藝術による

一百二十八、社會藝術による

一百二十九、政治藝術による

一百三十、經濟藝術による

一百三十一、文學藝術による

一百三十二、哲學藝術による

一百三十三、社會藝術による

一百三十四、政治藝術による

一百三十五、經濟藝術による

一百三十六、文學藝術による

一百三十七、哲學藝術による

一百三十八、社會藝術による

一百三十九、政治藝術による

一百四十、經濟藝術による

一百四十一、文學藝術による

一百四十二、哲學藝術による

一百四十三、社會藝術による

一百四十四、政治藝術による

一百四十五、經濟藝術による

一百四十六、文學藝術による

一百四十七、哲學藝術による

一百四十八、社會藝術による

一百四十九、政治藝術による

一百五十、經濟藝術による

一百五十一、文學藝術による

一百五十二、哲學藝術による

一百五十三、社會藝術による

一百五十四、政治藝術による

一百五十五、經濟藝術による

一百五十六、文學藝術による

一百五十七、哲學藝術による

一百五十八、社會藝術による

一百五十九、政治藝術による

一百六十、經濟藝術による

一百六十一、文學藝術による

一百六十二、哲學藝術による

一百六十三、社會藝術による

一百六十四、政治藝術による

一百六十五、經濟藝術による

一百六十六、文學藝術による

一百六十七、哲學藝術による

一百六十八、社會藝術による

一百六十九、政治藝術による

一百七十、經濟藝術による

一百七十一、文學藝術による

一百七十二、哲學藝術による

一百七十三、社會藝術による

一百七十四、政治藝術による

一百七十五、經濟藝術による

一百七十六、文學藝術による





# 青年會生る 年前より青年會創立の

横ナバカヨン

數年前より青年會創立の議が青年の話頭に登り乍ら、其の都度志青年其の他の事情に妨げられ資金難其の他の事情に妨げられ延び／＼になつて居つたのであるが、早夏日本文社設立以來有志青年其の他の父兄間より「斯る大集團地に青年會の無いのは恥だ、青年相互の啓發、親睦を圖らず賭博其他の惡習に陥り遂に取り返しのつかぬ事になつたら何うする」等の話があり、一日遅れば一生空して、此の儘捨て置く譯には行かぬと云ふ處から一般不況の折柄ではあるが、思ひ切つて設立する事に決め、歯科醫角田才次郎氏、前日伯物産支店長井上樹義氏及び遠藤支員の三氏青年會創立發起人となり、會員の糾合、會則の編纂し、日本人會館に於て創立總會資金の調達等に當り、ブルデンテ青年會と命名し、去る二月十五日カルナヴァルの佳日をト先づ發起人を代表して井上樹義氏立つて「青年會創立迄の經緯」を題し當地青年の現況より説き起し、母國の文化を遠く離れた吾々は之に連れさらんやうに努め、智識の交換、相互の意志の疎通を圖る上に又一致團結して互の惡習を矯め、外人をして流石文化國の青年であると首肯せしむるやうにし、又父兄及びひ皆様の賛同を得て今日發會式本人會と連絡を取り、同胞の發展を計る目的にて不肯等三名發起人となり奔走しました處、幸ひ皆様の賛同を得て今日發會式の努力に依つて此處ブルデンテを擧ぐる運びに到つたと述べる。森下龜太郎氏來賓を代表しケ年目、昭和五年十二月三日初開会ニニン植民地小學校教師岸本昂一先生、希望社々友の獻身中第二世の教育に就ては、委員新根瀧上兩氏の努力、リンス過去一ヶ年の経過を報告し、就中第二世の教育に就ては、委員新根瀧上兩氏の努力、リンス成式をとし、植民者一同の間ノロエヌヌ線アルベスから八十九基米の奥、七年前に初めて邦人の入植を見、桔据經營今や二十一家族の同胞、不況を物ともせず、一路理想的の境地に邁進しつゝあるのだ。而してこの校舎落成式を以て、植民地の親善、共同福利の増進に理想的自治體創立の議が起り、同地の元老手島喜一氏を相談會議長に推して種々協議の結果、大綱領をモットーとして進展する事に決した、尚事業計畫、顧問設置、語學研究、修養の達成、新役員は會長得丸久氏、主事吉武勤氏、顧問として同植民地小學校教師淺見哲之助氏を推し、同氏は隔夜青年一同の爲め語學指導の任に當らるゝ由、希望社精神の徹底等を議決し、事務部長宮本善次、運動部長川口土美三、文藝部長尾形義雄に就き、豫算の編成、本年度の事業に付き討議したが、會則の細項目其の他の役員に一任し、茅出度き意義ある發會式を閉じたは午後五時であつた、引續き役員會に移り、會の資源、維持法に付き議し合つて左記四氏を青年會名譽會員に推薦、農界不況の現今我々は青年の爲に大いに奮闘するものであると誓つて散會した。

名譽會員桑下龜太郎、同吉岡榮蔵、同片岡市・同植田藤三郎

## 希望青年會活動

パウリヌタ線マリア驛カスカマリリア・カスカツタ

### 希望青年會活動躍

バタ植民地に於ては、昨年五月に則り、青年の向上、理想的植民地建設、第二世教育を目指して異常の努力を續け、あつたが、最近昭和六年度總會を開き更に一段の活動に入る事となつて、其の席上に於て得丸會長は、其の奥、七年前に初めて邦人の入植を見、桔据經營今や二十一家族の同胞、不況を物ともせず、一路理想的の境地に邁進しつゝあるのだ。而してこの校舎落成式を以て、植民地の親善、共同福利の増進に理想的自治體創立の議が起り、同地の元老手島喜一氏を相談會議長に推して種々協議の結果、大綱領をモットーとして進展する事に決した、尚事業計畫、顧問設置、語學研究、修養の達成、新役員は會長得丸久氏、主事吉武勤氏、顧問として同植民地小學校教師淺見哲之助氏を推し、同氏は隔夜青年一同の爲め語學指導の任に當らるゝ由、希望社精神の徹底等を議決し、事務部長宮本善次、運動部長川口土美三、文藝部長尾形義雄に就き、豫算の編成、本年度の事業に付き討議したが、會則の細項目其の他の役員に一任し、茅出度き意義ある發會式を閉じたは午後五時であつた、引續き役員會に移り、會の資源、維持法に付き議し合つて左記四氏を青年會名譽會員に推薦、農界不況の現今我々は青年の爲に大いに奮闘するものであると誓つて散會した。

### 小學校經營に當る

### カスカツタ植民地

### 交友會を創立

因に同地新小學校の管理は交友會長の手に委ね、之が經營は交友會に於て行ふ事となり、之が經營の豫算の計上を見たる由、即ち次の如くである。





# 醬油

## 並ニ精選白赤味噌

北西線プロミッシュン町

## 陣容を整へて進む

### ミナス州で移住地

#### 水島主事の歸聖談

移住組合水島主事は、杉山氏同伴で去る十三日聖市出發ミナス州に出張の上、同州政府と州内植民事業に關し種々協議を重ね新契約に双方一致點を得て署名を濟ませ十九日無事歸聖したので、記者は廿四日同主事を事務所に訪ねば、ヤア、四、五日留守にしたので書類が机上山積の有様だ、愛想能く笑つて記者も海外興業會社に合併され今日の質問に對し大畠左の如く語つた

#### 海興植民地の組織變更

伯當時選定となり、調査に取扱つた例のミナス州リオ・ド・セウの一带は、踏査の結果移住地として鉢陥あるを發見したので、此の地は一日州政府へ返へざれたが、大體に於て軌道をへして、その代りにサクマメント河沿岸地帯を選定調査して、今同契約を締結するに至つた。プラジル拓植會社の名に於て創立されたイグアベ植民地は、後

日本經濟界近況

